

児童35人省エネ学ぶ

豊岡・
神美小 発電や温暖化テーマ

豊岡市立神美小で28日、セラール協会の宇田吉明・執行副理事長を講師に迎え、



火力発電の仕組みを解説した模型に見入る児童（豊岡市立神美小で）

5、6年生計35人が省エネルギー学習の一環として発電の仕組みや地球温暖化について学習した。

5、6年生は総合学習で、省エネルギーの学習に取り組んでおり、全校に呼びかけて節電を実践。校内の4月～10月末の電気料金を昨年と比べ、約11万円節約するなどしている。

宇田副理事長は圧力鍋から噴き出す水蒸気で、タービンを回し発電する模型を使って、火力発電の仕組みを説明。タービンが勢いよく回り、豆電球がともると、児童が歓声を上げた。

また、日本が世界で4番目に多く、二酸化炭素を排出し、二酸化炭素による地球温暖化の影響で、海水温

が上がり、台風やハリケーンが増加していることなどを解説。「厚着を」「暖房の設定温度を1度下げたり、シャワーの時間を1分短くしたりするだけでも二酸化炭素の排出量を減らせる」と呼びかけた。

5年生の安達大翔君(10)は「実験を通じて楽しみながら、勉強できた。学校だけでなく、家でも電気を節約するようにしたい」と話していた。

豊岡・神美小で省エネ学習・実験

総合的な学習の時間を活用して省エネについて学ぶ豊岡市三宅の神美小学校（松野雅幸校長、136人）の5、6年生35人が28日、自分たちの力や光で発電する実験に取り組んだ。同小では児童らが節電するようになって、今年4月～10月末間の電気代が昨年と比べて10万9672円安かったといい、松野校長は「学習の成果が生活に表れた。地域にも省エネが広まるよう授業を深めたい」と話す。



プロジェクトの光でソーラーカーを走らせる実験に興味津々の児童ら。豊岡市三宅の神美小学校で

豊岡市が全市的に取り組む環境教育の一環として、同小は昨年度から財団法人省エネルギーセンター（東京）のモデル校となり、省エネ学習を始めた。太陽電池の工場や風力発電所を訪ねて電力の大切さを学んだ児童らは、教室や廊下などの電気をこまめに消すように

モーター回しても電気なかつかず…
「発電つて大変」

7カ月で「今以上、節電頑張る」10万円節約

なった。今春からは全校的に電気代月額13万円以内に抑える目標をたてた。5年生を受け持つ森山健二先生が「教室が多少暗くても電気をつけたがらない」と驚くほど、児童らは徹底してきたという。

この日は、省エネに詳しい大阪環境カウンセラー協会（大阪市港区）の宇田吉明・副理事長を招き、手回し式の発電機で蛍光灯をつけたり、炭と塩を使って燃料電池を作ったりした。

児童らが懸命にモーターを回してもなかなか電気はつかなかったことから、5年生の隈元道厚君（11）は「発電の大変さがよくわかった。節電を今以上に頑張ります」と話した。

豊岡の小学校

勉強も無駄なく省エネ学ぶ

授業で人力発電など実験

財団法人「省エネルギーセンター」から、全国約百五十校の省エネ教育推進モデル校の指定を受けている豊岡市立神美小（松野雅幸校長）で二十八日、専門家を招いて二酸化炭素を排出しない省エネに着眼。現在、五、六年生が総合学習として取り組んでいる。学習だけでなく、校内で省エネ活動も実践。天気の良い日は教室の電気を消すなどして、今年四月から半年間で前年比約十一万円分の電気代節約に成功している。

この日は五、六年生計三十五人が参加。NPO法人「大阪環境カウンセラー協会」の副理事長、宇田吉明さんを講師に迎え、近年、二酸化炭素の排出量が増え、南極の氷山が溶けるなど地球温暖化が進んでいる現状の説明を受けた。宇田さんは、家族で同じ部屋で過ごすなどして電力を節約する重要性を訴えた。

続いて、食塩水が入ったペットボトルに電極として木炭を入れ、電力をためることが出来る「燃料電池」の実験に取り組み、プロペラが回った。児童から歓声が上がっていた。

五年生の家下正義君（こは）は「電気を無駄遣いしないよう周囲の人に伝えたい」と話していた。



実験で燃料電池をつくり、プロペラを回転させる児童たち＝豊岡市立神美小

この日は五、六年生計三十五人が参加。NPO法人「大阪環境カウンセラー協会」の副理事長、宇田吉明さんを講師に迎え、近年、二酸化炭素の排出量が増え、南極の氷山が溶けるなど地球温暖化が進んでいる現状の説明を受けた。宇田さんは、家族で同じ部屋で過ごすなどして電力を節約する重要性を訴えた。

続いて、食塩水が入ったペットボトルに電極として木炭を入れ、電力をためることが出来る「燃料電池」の実験に取り組み、プロペラが回った。児童から歓声が上がっていた。

五年生の家下正義君（こは）は「電気を無駄遣いしないよう周囲の人に伝えたい」と話していた。

発電実験に興味津々

豊岡・神美小で省エネ授業

地球温暖化なども学ぶ

発電のしくみや地球温暖化について学ぼうと、豊岡市三宅の神美小学校で二十八日、省エネルギー授業が行われた。五、六年生三十一人が参加し、さまざまな実験を楽しみながら、環境問題への意識を高めた。

同小は、二〇〇四年度から、財団法人「省エネ

ルギーセンター」から「省エネルギー教育推進モデル校」に指定されている。こまめに校舎の電気を消すなどしており、今年四月から十月末までの電気代を、前年度同期比で十

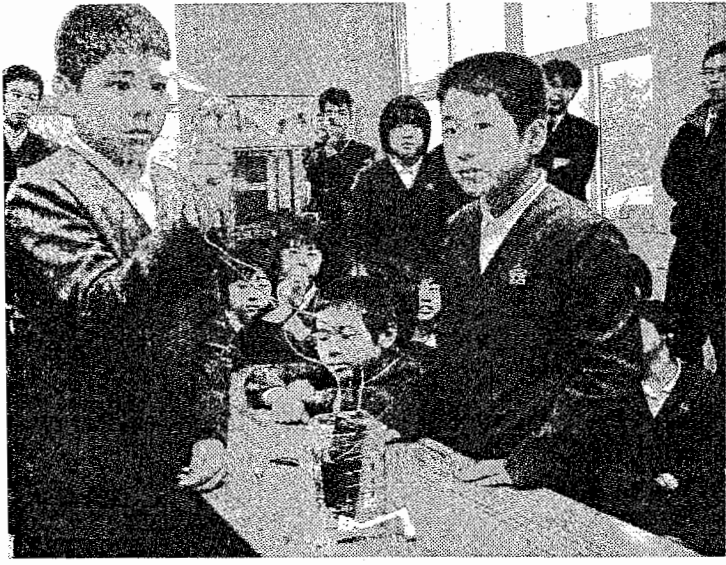
万九千七百円も節約した。この日は、特定非営利活動法人(NPO法人)

「大阪環境カウンセラー協会」の宇田吉明執行副

理事長が授業。石油の使用などで二酸化炭素が多くなり、地球温暖化が進んでいる状況などを解説した。児童は、風力発電や摩擦の発電などいろいろな実験に挑戦。塩水に炭の棒を入れ、電流を流して燃料電池を作る実験では、電流を流すため発電機の取っ手を一生懸命回していた。

宇田副理事長は「二酸化炭素が出ないエネルギーを作ることが必要だが、すべてクリーンエネルギーと呼び掛けた。五年生の岩崎晋平君は「たくさん参考になることがあった。省エネを進め、二酸化炭素を少しでも減らしたい」と話していた。

燃料電池を作った風車を回す児童ら＝豊岡市三宅



燃料電池を作った風車を回す児童ら＝豊岡市三宅

(森 信弘)